

平成24年度 第4回 東京都地方独立行政法人評価委員会
高齢者医療・研究分科会議事概要

1 日 時

平成24年11月9日（金曜日） 午後15時6分から午後16時16分まで

2 場 所

東京都庁第一本庁舎42階北側 特別会議室C

3 出席委員

高久委員長、河原委員、鈴木委員（委員長を除き、五十音順）

4 議 題

- (1) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター第二期中期計画案の意見聴取について
- (2) 中期目標期間評価に係る各様式について

5 報告事項

- (1) 中期目標の決定等について
- (2) 今後のスケジュールについて

6 議事概要

開会

- (1) 事務局より、分科会長と分科会長代理の選出を出席委員に依頼
⇒分科会長に高久委員（互選）、分科会長代理に近藤委員（分科会長の指名）が就任
- (2) 第二期中期目標について、都議会で議決されたことの報告
- (3) 健康長寿医療センターより、第二期中期計画案の概要（資料3、4、5）を説明

【質疑応答・委員意見】 ※太字ゴシックが委員意見

■**医事課を委託から自前化したことで、成果（収入増）は出たのか**

（法人回答）

⇒高額レセプトの請求漏れを防ぐために、医局に対しフィードバックを行ったり、医事課職員を病棟担当制にし、病棟との連携強化を図る等、工夫を行っているところである。

■**職種別、階層別人材育成を計画に上げているが、世代による職員の偏りはあるのか**

（法人回答）

⇒看護師やコメディカルについて、都派遣職員を解消し、新人職員を採用している最中であるため、中間管理職に適当な層の人材が不足している。経験者採用枠を増やし人材の確保に努めているが、給与面のこともあり、なかなか人が集まらないのが現状である。

■**地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化を図るためには、内部や外部からの監査を行うことも必要であるが、組織体制の強化が最も重要である。組織体制の強化として、トップマネジメントの機能強化が一番の要であるため、中期計画に明確に記載した方がよい。**

■コスト管理体制の強化として、部門別等の原価計算の実施を挙げているが、第二期中期目標期間の5年間で精緻な分別計算手法を組織的に確立することは大変である。年度計画等で段階的に目標を立てながら確実に実施してほしい。

■「安心かつ信頼できる質の高い医療の提供」で、院内感染防止対策の具体例として、板橋区感染症危機管理協議会による地域ぐるみでの感染対策の実施を挙げているが、これは新型インフルエンザ等の新興・再興感染症といった外部で流行る感染症の対策として、リスク管理の項目にふさわしい内容だと思うが、院内感染防止対策の項目にこの取組を挙げた理由は何か

(法人回答)

⇒以前に当院で多剤耐性菌による院内感染が問題になったことがあったが、転院してくる新規の入院患者が感染元ということで、本院がどう対策してもどうにもならなかった。この経験を踏まえ、現在はこのような多剤耐性菌感染対策については、院内感染対策も含め地域全体で取り組んでいる。また、地域の感染対策能力を高めるために、当院から感染症の専門医やICUナースの派遣を行っている。院内感染防止のためにも、地域での感染防止対策が重要と考えている。

(委員意見)

⇒センターPRのためにも、中期計画案文中に地域を含めた感染症対策について記載するとよいのではないか。

■収支計画中の営業収益や負担金及び交付金を除いた医業収益について、次期の5年間でどのくらいの伸び率を考えているのか

(法人回答)

⇒第二期の初年度は、移転に伴う特殊な事情があるが、2年目以降の伸び率は、国の医療費負担はおおよそ年3%ずつ増えていることを参考に、各年度の平均が3%の範囲内となるよう医業収入を見込んだ。

■(上記回答を受けて)では、年3%増というのは高い数値目標ではなく、3%を超過する可能性もあるということか。

(法人回答)

⇒これまでの診療単価の実績から考えると、達成できない額でもないと考えている。今後、外科の診療体制の向上を図り、それに伴う在院日数の短縮と診療単価の増加を目指したい。

■収益増加を目指しながら、コスト削減にも取り組んでほしい。原価計算を取り入れ、固定費、変動費ともにコスト削減に努めてほしい。

(4) 中期目標期間評価に係る各様式について、事務局より説明
→「意見無し」の旨確認

(5) その他
○事務局より、今後の分科会の開催等について説明